

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成28年3月3日(2016.3.3)

【公開番号】特開2014-191528(P2014-191528A)

【公開日】平成26年10月6日(2014.10.6)

【年通号数】公開・登録公報2014-055

【出願番号】特願2013-65427(P2013-65427)

【国際特許分類】

G 0 5 D 16/10 (2006.01)

F 1 6 K 51/00 (2006.01)

【F I】

G 0 5 D 16/10 Z

F 1 6 K 51/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月14日(2016.1.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

減圧室26内の反応ガスが所定の圧力以下であり、反応ガスのピストン100に対する押圧力と、第1コイルスプリング60による第1リテーナ56を介しての弁棒80に対する弾発付勢力の合計が、第2コイルスプリング140によるピストン100に対する弾発付勢力よりも小さいときには、ピストン100が変位することはない。この場合、反応ガスは、減圧室26から導出経路に向かい、出口ポート30から、ガス出口側継手132内の出口流路134を流通して減圧弁10の外部に導出される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

これに対し、減圧室26内の反応ガスが十分に高圧であり、このために減圧室26に到達した反応ガスのピストン100に対する押圧力と、第1コイルスプリング60による第1リテーナ56を介しての弁棒80に対する弾発付勢力の合計が、第2コイルスプリング140によるピストン100に対する弾発付勢力を上回ると、ピストン100が上方に変位する。上記したようにピストン100には係止部材106を介して弁棒80が連結されているため、弁棒80もピストン100に追従して上方に変位する。この際、弁棒80の側周壁が、主には第2挿通孔58の内周壁に摺接する。また、第1コイルスプリング60が伸張する一方で、第2コイルスプリング140が収縮する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

減圧室26に進入した反応ガスが導出流路28、出口ポート30及び出口流路134を

介して減圧弁 10 の外部に導出されると、減圧室 26 内の圧力（換言すれば、ピストン 100 に対する押圧力）が低下する。そして、第 2 コイルスプリング 140 による弾発付勢力が、減圧室 26 内の反応ガスのピストン 100 に対する押圧力と、第 1 コイルスプリング 60 による弁棒 80 に対する弾発付勢力の合計を上回ると、ピストン 100 が下方に変位する。これに追従し、該ピストン 100 に連結された弁棒 80 も下方に変位するとともに、第 1 コイルスプリング 60 が収縮する。さらに、第 2 コイルスプリング 140 が伸張する。